

Smile Please!

藤原 紀香

何が平和？ 何が幸せ？



カンボジアを訪ねた2006年、最も衝撃を受けたのは、首都プノンペンの郊外にあるスモーキー・マウンテンを見たときでした。

急速に都市化が進むプノンペンから吐き出される大量のごみが、毎日、ここに運び込まれ、捨てられています。鼻をつく異臭を放ち、ごみから出るメタンガスなどが自然発火してあちこちから煙が上がっていました。この光景からスモーキー・マウンテンと呼ばれています。

そんなごみの山で生きる人たちに会いました。

生活ごみをはじめ、空き缶、鉄くず、プラスチック…。さまざまなごみが無造作に捨てられている山の上を、子どもたちが裸足で歩き回っていました。スラムと化したスモーキー・マウンテンで生まれ、ここで一生を終えてしまう子どもたち。親もここで生まれた人たちはばかりでした。

そんななか、裸で歩いている5歳ぐらいの男の子たちと出会い、話をしていると、私たちに気づいた男性が遠くからこちらに歩いてきました。何を言われるのか、カメラを持っているし、怒られるのかなと心配していると、「息子たちがかわいいたる、こいつらがいるからおれも生きていけるんだ」と言い、子どもたちを両脇にグッと抱きしめ、満面に笑みをたたえました。そして、裸ん坊の子どもに「ほら、お客さんが来てるんだから、これ着なさい」と、服を着せてあげている父親。きゃいきゃい言いながら、笑顔ではしゃぐ子ども。この親子の姿を見て、いろいろなことが頭をよぎりました。

日本では、親がわが子を刺し殺したとか、子どもが親を殴り殺したとか、コインロッカーベイビーが発見されたといったニュースが後を絶ちません。

不景気とはいえ、世界から見ると平和で豊かな日本。でも、悲しいニュースばかり…。何が平和で、何が幸せなんだろう。ごみの山での暮らしは貧しく、壮絶な様子でしたが、そこには、愛がいっぱいあふれていました。私は今、とても大切なものを見ていると感動しました。

カンボジアのスモーキー・マウンテンで、親子のあり方、本当の豊かさとは？ と考えさせられた光景でした。



(プノンペン スモーキー・マウンテンにて ©Norika Fujiwara)